

平成27年度

第70回国民体育大会山形県予選会
兼 第42回東北総合体育大会山形県予選会

水球競技大会



主 催	(公財) 山形県体育協会	山形県教育委員会
	山形県高等学校体育連盟	山形市教育委員会
主 管	(公財) 山形市体育協会	山形県水泳連盟 山形市水泳連盟
期 日	平成27年6月13日(土)	
会 場	山形地区高等学校共用屋外プール	

式次第

【開会式】

6月13日(土) 9:30

1. 開式通告
2. あいさつ
3. 審判長注意
4. 選手宣誓
5. 閉式通告

【閉会式】

6月13日(土) 12:00

1. 開式通告
2. 成績発表
3. 表彰
4. 講評
5. 閉式通告

《競技役員》

審判員	温井秀典	吉田幸宏	岸康弘	伊藤秀幸
デレゲート(兼審判審査)	大島明			
ゴールジャッジ	菅原社大	沖田泰希	永山祐介	
計時員	近野一成	吉田聡	奈良崎有人	
セクレタリー	相馬光	榎本崇	設楽千尋	
タイムアウト員	武田朋子	鈴木努	吉田光孝	
記録員	秋葉朋子	石山大祐	高橋詩織	
得点掲示員	伊藤晴香	吉田晃	設楽実	
召集員	原田正志	村上卓也	三浦龍一	
通告員	岸野典子	今野奈保子		
パーソナルファール表示係	那須洋樹	齊藤大介	設楽麻美	
救護員	山川夏子	半田敦子		
総務員	齋藤秀樹	吉田幸宏	大沼直和	品川康臣 近野洋平
補助員	山形工業高等学校水泳部員			

参 加 選 手

山形県立山形工業高等学校			山 形 S H A R K S		
監督	齋藤秀樹		監督	近野洋平	
選手	氏 名	学年	選手	氏 名	学年
1	莊 司 直 宏	3	1	山 川 修 太	2
2	長 岡 拓 武	3	②	鈴 木 健	2
3	佐 藤 丈 一	3	3	阿 部 風	2
4	森 谷 修 斗	3	4	佐 藤 界 人	2
⑤	市 村 朋 也	3	5	斉 藤 大 輝	2
6	土 田 竣 也	1	6	齋 藤 礼 喜	1
7	加 藤 時 也	1	7	結 城 翼	1
8	小 出 唯 斗	1	8	堀 口 怜 生	1
9	石 山 永 遠	1	9		
10			10		
11			11		

【決勝】 10 : 30

山形工業高校	2 — 1	山形SHARKS
<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">15</div>	3 — 5	<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">14</div>
	4 — 3	
	6 — 5	

【結 果】

優 勝 山形県立山形工業高等学校 (8 年連続 26 回目)

第2位 山 形 S H A R K S

※ 出場したメンバーより11名が選考されて、東北総体へ出場する

国民体育大会山形県予選会水球競技歴代優勝チーム

回	開催年度	チ　ム　名	回	開催年度	チ　ム　名
1	1989	山形工業高等学校	14	2002	山形工業高等学校
2	1990	山形工業高等学校	15	2003	山形工業高等学校
3	1991	山形工業高等学校	16	2004	山形工業高等学校
4	1992	山形工業高等学校	17	2005	山形工業高等学校
5	1993	山形工業高等学校	18	2006	山形工業高等学校
6	1994	山形工業高等学校	19	2007	山形 S H A R K S
7	1995	山形工業高等学校	20	2008	山形工業高等学校
8	1996	山形工業高等学校	21	2009	山形工業高等学校
9	1997	山形工業高等学校	22	2010	山形工業高等学校
10	1998	山形工業高等学校	23	2011	山形工業高等学校
11	1999	山形工業高等学校	24	2012	山形工業高等学校
12	2000	山形工業高等学校	25	2013	山形工業高等学校
13	2001	山形工業高等学校	26	2014	山形工業高等学校

緊急医療連絡先

山形県立中央病院	TEL 623-4011
山形済生病院	TEL 682-1111

山形県体育協会が重点的に取り組む3つの柱

「スポーツを通して、健康で明るく活力に満ちた山形県づくりに貢献します」

1 みんながスポーツに親しめる環境をつくります

2 世界で活躍する選手を育成します

3 スポーツ活動を通して、青少年の健全育成に取り組みます